

小学校家庭科における「協働」に関する教育内容の検討

Investigation on Courses of Study and Home Economics Textbooks in Elementary School focusing on “Cooperation”

杉村 桃子, 菊地 志帆*

Momoko SUGIMURA, Shiho KIKUCHI

1. 緒言

学習指導要領は、全国のどの地域で教育を受けても一定の水準の教育を受けられるようにするため、学校教育法に基づき、各学校で教育過程を編成する際の基準として作成されており、文部科学省が約10年ごとに改訂している。小学校、中学校、高等学校ごとに、それぞれの教科等の目標や大まかな教育内容が定められており、これとは別に、学校教育法執行規則で、例えば、小学校・中学校の教科の年間の標準授業時数が定められている。家庭科では目標・学習内容において、小学校、中学校、高等学校で協働に関する内容が含まれ、その年代の個人と社会の目指すべき姿に合わせて少しずつ改訂されている。

文部科学省は、教科書を『小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、中等教育学校及びこれらに準ずる学校において、教育課程の構成に応じて組織排列された教科の主たる教材として、教授の用に供せられる児童又は生徒用図書であり、文部科学大臣の検定を経たもの又は文部科学省が著作の名義を有するもの』と規定している。小学校家庭科の教科書は東京書籍と開隆堂により発行され、学習指導要領の改訂に伴い教科書も改訂されている。

本研究では、小学校家庭科における協働を題材とした指導案を作成するにあたり、学習指導要領が小学校、中学校、高等学校でどの領域で協働に関する内容をどのように取り扱っているのかを明らかにす

る。小学校、中学校、高等学校の学習指導要領を分析することで、小学校の学習内容を把握し、協働に関する内容が学習指導要領でどのように記述されているのかを明らかにする。また、教科書のどの分野で協働に関する内容を取り扱っているかを明らかにするため、協働に関する内容は教科書でどのように変化しているかを明らかにする。教科書並びに学習指導要領における協働に関する記述内容、授業実践事例の報告内容を分析し、小学校家庭科における協働的な学びに関する学習内容にはどのようなものがあるのかを明らかにする。さらに、協働的学習を取り入れた授業の傾向を明らかにするために、家庭教育関係雑誌「家庭科研究」の中の協働的学習を取り入れた指導案と、家庭科教育研究会の指導案の記述内容を分析する。これらを基に、学習方法として協働を取り入れ、学習内容としても協働に重視した授業案を提案する。

2. 方法

2-1 分析対象

(1) 学習指導要領

表1に示す、小学校・中学校・高等学校の平成10年、平成20年、平成29年告示の学習指導要領の家庭編^{11)~9)}において、どのように記述されているのか、どのように変遷しているかを分析する。

(2) 教科書

表2及び表3に示す、平成7年から平成31年に検定された小学校家庭科の教科書12冊(東京書籍6冊^{10)~15)}、開隆堂6冊^{16)~21)}の記述内容について、ど

2021.6.28 受理

*本学部卒業生

表1 分析対象の学習指導要領

タイトル	告示年・月	施行年・月
小学校学習指導要領第8節家庭	平成10年12月	平成14年4月
小学校学習指導要領第8節家庭	平成20年3月	平成23年4月
小学校学習指導要領第8節家庭	平成29年3月	令和2年4月
中学校学習指導要領第8節技術・家庭 家庭分野	平成10年12月	平成15年4月
中学校学習指導要領第8節技術・家庭 家庭分野	平成20年3月	平成24年4月
中学校学習指導要領第8節技術・家庭 家庭分野	平成29年3月	令和3年4月
高等学校学習指導要領第9節家庭	平成10年12月	平成16年4月
高等学校学習指導要領第9節家庭	平成20年3月	平成25年4月
高等学校学習指導要領第9節家庭	平成29年3月	令和4年4月

表2 分析対象の教科書（東京書籍）

No.	文献名	検定年・月	発行年・月
A	新しい家庭	平成7年1月	平成8年2月
B	新しい家庭	平成13年1月	平成14年2月
C	新しい家庭	平成16年1月	平成17年2月
D	新しい家庭	平成22年1月	平成23年2月
E	新しい家庭	平成26年1月	平成27年2月
F	新しい家庭	平成31年1月	令和元年2月

表3 分析対象の教科書（開隆堂）

No.	文献名	検定年・月	発行年・月
G	わたしたちの家庭	平成7年1月	平成8年2月
H	わたしたちの家庭	平成13年1月	平成14年2月
I	わたしたちの家庭	平成16年1月	平成17年2月
J	わたしたちの家庭	平成22年1月	平成23年2月
K	わたしたちの家庭	平成26年1月	平成27年2月
L	わたしたちの家庭	平成31年1月	令和元年2月

のように記述されているのか、どのように変遷しているかを分析する。

(3) 授業実践報告

調査対象とした雑誌は、家庭科教育関係雑誌「家庭科研究」2冊、教育実践研究誌1冊、第35回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会(新潟大会)指導案集1冊である。論文及び雑誌、指導案集内の協働的学習を取り入れた授業実践例及び指導案(計6件)を調査対象とする。調査対象の実践事例及び指導案を表4に示す。

2-2 分析方法

(1) 学習指導要領

それぞれの学習指導要領の各分野で、協働に関する10種類のキーワードが何回使われているのかを集計する。学校種別に記述されているキーワードが異なるため、小学校・中学校・高等学校において、集計するキーワードは異なる。学校種別に集計するキーワードを表5に示す。

(2) 教科書

それぞれの教科書の各分野で、協働に関する10種類のキーワードが何回使われているのかを集計する。また、それぞれの教科書の各分野のページに記載されている、家族・友達・地域に関する写真と挿

表4 調査対象とした授業実践事例及び指導案

No.	領域	題目	学年	実践者・作成者	年号
I	衣生活	希望をたくしたクラス1枚の大きなタスペクトリー製作 ²²⁾	小学5年生	家内香子	2007
II	衣生活	ナップザック作り ²³⁾	小学5年生	大葉好子	2008
III	食生活	いろいろな調理方法を知ろう! ²⁴⁾	小学5年生	大葉好子	2008
IV	食生活	ごはんのみそ汁を作ろう! ²⁵⁾	小学6年生	大葉好子	2008
V	衣生活	自分だけの袋をつくろう ²⁶⁾	小学5年生	中里真一, 小林陽子, 前田亜紀子	2017
VI	消費生活	じょうずに使おう お金と物 ²⁷⁾	小学5年生	池田清太郎, 石原清佳	2019

表5 学校種別の集計するキーワード

学校種	キーワード
小学校	『関わり』、『協力』、『関連』、『ふれあい』、『団らん』、『連携』、『意見交流』、『支える』、『協働』
中学校	『関わり』、『協力』、『関連』、『ふれあい』、『団らん』、『連携』、『意見交流』、『支える』、『協働』
高等学校	『関わり』、『協力』、『関連』、『ふれあい』、『団らん』、『連携』、『意見交流』、『支える』、『協働』、『共に』、『相互に』、『共助』、『公助』、『支え合い』、『交流』

絵の数を集計する。

キーワードは、『関わり』、『協力』、『関連』、『ふれあい』、『団らん』、『連携』、『意見交流』、『支える』、『協働』である。

(3)授業実践報告

表4に示す、2007年と2008年に発行された「家庭科研究」に掲載されている実践報告4件及び2018年に発行された論文「小学校家庭科における協働的問題解決を取り入れた布を用いたものづくり学習」の指導案、第35回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会(新潟大会)指導案について、協働的学習がどのように授業内に取り入れられてきたのかを明らかにするために、分析調査を行う。

3. 結果と考察

3-1. 学習指導要領における記述内容

平成10年告示学習指導要領は、自ら学び自ら考える力などの『生きる力』の育成がねらいとして作られた。

学習指導要領において、どの領域で協働に関する内容をどのように取り扱っているか、記述内容を分析し、協働に関するキーワードを集計した。

平成10年告示小学校学習指導要領第8節家庭における協働に関するキーワードを集計した結果、『第1目標』では、協働に関するキーワードは記述されていなかった。しかし、『第2各学年の目標及び内容の目標』においては、『(1)衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活を支えているものが分かり、家庭生活の大切さに気付くようにする。』、『(3)自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。』とあり、家庭との協働的関わりについての目標が記述されていた。『2内容』では、『(1)家庭生活に関心をもって、家庭の仕事や家族とのふれあいができるようにする。』と記述されていた。ここでは、ア～エまで、キーワードとして『支える』、『協力』、『触れ合い』、『団らん』が使われていることから、協働に関する内容であることが分かった。また、『(1)家庭生活』で協

働に関するキーワードが多く使われていたことが分かった。

次に、平成10年告示中学校学習指導要領第8節技術・家庭 家庭分野における協働に関するキーワードを集計した結果、『1目標』では、協働に関するキーワードは記述されていなかった。しかし、『2内容』の『B家族・家庭生活』では、『(1)自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えさせる。』とあり、協働に関する内容について考えることが記述されていた。また、『(5)幼児の生活と幼児との触れ合い』について、次の事項を指導する。『イ幼児の心身の発達』を考え、幼児との触れ合いやかかわり方の工夫ができること。』とあり、協働の中でも幼児との関わりについて学ぶ内容が記述されていた。『(6)家庭生活と地域とのかかわりについて、次の事項を指導する。』、『ア地域の人々の生活に関心をもち、高齢者など地域の人々とかかわること。』とあり、(6)には地域とのかかわりについて記述されていた。『3内容の取扱い』では、『(5)のイ』については、『幼稚園や保育所等で幼児との触れ合いができるよう留意すること。』とあり、幼児と実際に関わるものが求められていた。また、『自分の成長と家族や家庭生活』と『幼児の生活と幼児との触れ合い』は、協働に関するキーワードが多く使われていた。

続いて、平成10年告示高等学校学習指導要領第9節家庭の第1家庭基礎における協働に関するキーワードを集計した結果、『目標』には、協働に関するキーワードは記述されていなかった。『2内容(1)人の一生と家族・福祉』には、『人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者の生活と福祉について理解させ、男女が相互に協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について認識させる。』とあり、男女の協働について記述されていた。

第2家庭総合の『1目標』には協働に関する内容はなかったが、『2内容(1)人の一生と家族・家庭』には、家庭基礎と同様に、男女の協働について記述されていた。『(2)子どもの発達と保育・福祉』では、子どもと適切にかかわることができるようにすることが記述されており、幼児との協働について学習することが記述されていた。また、『人の一生と家族・家庭』では、協働に関するキーワードが多く使われていたことが分かった。

平成20年告示学習指導要領は、教育基本法改正等で明確になった教育の理念を踏まえた『生きる力』

の育成、道徳教育や体育などの充実により、豊かな心や健やかな体を育成することをねらいとして制定された。平成10年告示学習指導要領においても生きる力は謳われていたが、平成10年告示学習指導要領では、生きる力を育む具体的な手立てを確立する観点から改訂された。

平成20年告示小学校学習指導要領第8節家庭における協働に関するキーワードを集計した結果、『第1目標』では協働に関する内容は記述されていなかったが、『第2各学年の目標及び内容』の『1目標』には『(3)自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとすることを実践的な態度を育てる。』とあり、協働に関する内容が記述されていた。『2内容』では、『A家族・家庭生活』で協働に関するキーワードが多用されており、協働に関する学びが求められていることが分かった。

次に、平成20年告示中学校学習指導要領第8節技術・家庭 家庭分野における協働に関するキーワードを集計した結果、『第1目標』では、協働に関するキーワードは記述されていた。『第2各学年の目標及び内容』の『1目標』には協働に関するキーワードは使われていないが、『2内容(1)』では『ア自分の成長と家族や家庭生活とのかかわりについて考えること。』とあり、家族との協働を学ぶことが記述されていた。(3)には幼児とのかかわりが求められており、『A家族・家庭と子供の成長』が協働的な内容であった。『3内容の取扱い』では幼稚園や保育所等で幼児と触れ合うことが記述され、生徒が協働を実体験から学ぶことになっていた。

続いて、平成20年告示高等学校学習指導要領第9節家庭における協働に関するキーワードを集計した結果、『第1家庭基礎』では、『1目標』には協働に関する記述はなかったが、『2内容』では、『子どもと高齢者の生活と福祉について考えさせ、共に支えあって生活することの重要性について認識する。』とあり、家族・子ども・高齢者といった広い環境での協働を学ぶことが記述されていた。また、『生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解させ、家庭や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支えあって生活することの重要性について認識させる。』とあり、共生社会を学ぶことが記述されていた。協働に関するキーワードは、家庭基礎では『人の一生と家族・家庭及び福祉』、家庭総合では『人の一生と家族・家庭』において多用されていたことが分かった。

平成29年告示学習指導要領は、新しい時代を生きる子どもたちに必要な力を、『学んだことを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力・人間性』、『実際の社会や生活で生きて働く、知識及び技能』、『未知の状況にも対応できる、思考力・判断力・表現力』の3つの力をバランスよく育むことをねらいとして制定された。また、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の視点から『何を学ぶか』だけでなく、『どのように学ぶか』も重視して授業を改善することもねらいとされた。

平成29年告示小学校学習指導要領第8節家庭における協働に関するキーワードを集計した結果、『第1目標』では、『(3)家庭生活を大切にすることを育み、家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一員として、生活をよりよくしようと工夫する実践的な態度を養う。』とあり、協働に関する目標であることが分かった。『Aの家族・家庭生活』では、協力と関わりの2つのキーワードが多用されており、協働に関する学びであることが分かった。『第3指導計画の作成と内容の取扱い』では、他者と意見交流すること、家庭や地域との連携をすることが記述されており、協働的学びが求められていることが分かった。

次に、平成29年告示中学校学習指導要領第8節技術・家庭 家庭分野協働に関するキーワードを集計した結果、『第1目標』では、関わりと協働の2つのキーワードが用いられており、小学校、同様、協働に関する目標が記述されていることが分かった。『第2内容』では『A家族・家庭生活』において、協力・協働・関わりの3つの単語が多用されていたことから、協働に関する学習内容であることが分かった。『第3内容の取扱い』では、『幼稚園、保育所、認定こども園などの幼児の観察や幼児との触れ合いができるよう留意すること。』とあり、幼児と関わることで実体験から協働的な学びが求められていることが分かった。

続いて、平成29年告示高等学校学習指導要領第9節家庭の『第1家庭基礎』における協働に関するキーワードを集計した結果、『1目標』において『男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を想像する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。』とあり、これは、男女が協力して家庭や地域をつくる未来を目的としていると考えられた。また、協働に関するキーワードは、家庭基礎では『人の一生と家族・家庭及び福祉』、家庭総合では『人の一生と家族・家庭』において多用されていることが分かった。

3-2. 教科書における記述内容

東京書籍は、どの教科書においても協働に関するキーワードが用いられている分野が偏っていることが特徴的であった。キーワードは『関わり』と『協力』が多用されていた。写真と挿絵は家族についてのものが多く、これは家族や地域との協働的活動について学ぶ分野が多いからではないかと考えられた。また、ミシンの使い方や手縫いの仕方など、学習内容は協働に関する題材ではないが、友達が作業をしている時の注意事項が含まれた題材や、家族へのプレゼントとして縫いものを作ることを含んだ題材において、家族や友達との写真・挿絵が記載されていることが分かった。協働に関する題材は、題名は少しずつ変わっているが、家族や地域との関わりに関する分野が多かった。

開隆堂の教科書『わたしたちの家庭科』は、東京書籍の教科書『新しい家庭』と比較して、題材が細かく分けられているのが特徴的であった。平成7年、平成11年検定版の教科書においては、キーワードの中でも『関わり』が全く使われていなかった。平成13年検定版からは少しずつ増えており、平成31年検定版では協働に関するキーワード全体の中で31(%)と最も使われていることから、学習指導要領改訂に伴い、協働に少しずつ着目していることが分かった。また、どの年の教科書においても地域より家族と友達に関する写真と挿絵が多いことが分かった。これは学習指導要領において家族と友達との協働に関する内容が多いからであるが、学習指導要領には地域に関する分野も規定されているので、写真をもう少し増やすべきではないかと考えられた。

3-3. 授業実践報告における記述内容

協働的学習を取り入れた授業の傾向を明らかにするために、家庭科教育関係雑誌「家庭科研究」及び教育実践研究誌の中の協働的学習を取り入れた指導案と、家庭科教育研究大会の指導案の記述内容を分析した。

家庭科教育関係雑誌の授業実践報告では、児童間で共通の目標がある授業は少なかったが、教育実践研究誌及び家庭科教育研究大会指導案集授業実践報告では、話し合いを取り入れることで、協働的な学習を取り入れた授業が行われていたことが分かった。

教師が目標を認識することはあっても、児童が共通の目標を認識する授業実践報告は少なかった。認

識していた目標には、「みそ汁をつくる」や「袋を製作する」といった、活動としての目標が多かったことが分かった。

また、第3期教育振興基本計画では、2030年以降の個人の目指すべき姿を「自立した個々が多様な人々と協働して主体的な判断をする」とされていることもあり、2018年以降は協働的学習を取り入れた授業が展開されることが多いことが分かった。

4. 結論

小学校家庭科における指導案を作成するにあたり、平成10年告示、平成20年告示、平成29年告示学習指導要領における協働に関するキーワードを集計してその記述内容を分析した。また、東京書籍と開隆堂から発行されている合計14冊の教科書における協働に関するキーワード・写真・挿絵を集計し、記述内容を分析した。さらに、協働的学習を取り入れた授業の傾向を明らかにするために、家庭科教育関係雑誌「家庭科研究」の中の協働的学習を取り入れた指導案と、家庭科教育研究大会の指導案の記述内容を分析した。その結果、以下のような結論を得た。

- (1) 小学校の平成10年告示学習指導要領では、『支える』、『協力』、『触れ合い』、『団らん』といったキーワードが使われており、『B家族・家庭生活』が協働に関する内容であることが分かった。
- (2) 小学校の平成20年告示学習指導要領では、『関わり』というキーワードが多用されており、協働の中でも、他者との関わりに重点が置かれていることが分かった。
- (3) 小学校・中学校・高等学校の平成10年告示、平成20年告示、平成29年告示学習指導要領において、協働に関する学習内容の中で、「身につけること」として定められている項目が少なかった。
- (4) 平成29年告示学習指導要領では、小学校・中学校・高等学校で、協働に関するキーワードが多用されていることから、近年、協働に関する学びが求められていることが分かった。特に、小学校では『A家族・家庭生活』で協働に関する学習内容が取り上げられ、自分の成長や家族との関わり、家庭生活と地域社会の関わりについて理解することが定められていることが分かった。
- (5) 東京書籍出版『新しい家庭』、開隆堂出版『わたしたちの家庭科』ともに、それぞれの分野での題材名は少しずつ変わっているが、家族との団らん・家庭の仕事を見直す題材、地域社会との関わりを見直

す題材で協働に関するキーワード・写真・挿絵の割合が高く、協働に関する内容を取り扱っていることが分かった。

(6) 東京書籍出版『新しい家庭』の各分野において、“家庭科の窓から生活を見つめよう”と題し、「協力」、「健康」、「快適」、「安全」、「生活文化」、「持続可能な社会」のいずれかが示されていた。この6キーワードは、“家庭科の窓”と定義され、小学校家庭科において、児童が生活における生活事象を捉える視点や考え方の基本である。教科書では児童に分かりやすいように示され、各分野で学ぶことにより“家庭科の窓”から、児童にとっては自分の生活を見つめ、生活を見直す力が培われることが可能であることが分かった。

(7) 授業実践報告書等の記述内容の分析により、2018年以降は協働的学習を取り入れた授業が展開されることが多いことが分かった。

参考文献

- 1) 文部省；『小学校学習指導要領第8節家庭』（平成10年12月）
- 2) 文部省；『小学校学習指導要領第8節家庭』（平成20年3月）
- 3) 文部省；『小学校学習指導要領第8節家庭』（平成29年3月）
- 4) 文部省；『中学校学習指導要領第8節技術・家庭家庭分野』（平成10年12月）
- 5) 文部省；『中学校学習指導要領第8節技術・家庭家庭分野』（平成20年3月）
- 6) 文部省；『中学校学習指導要領第8節技術・家庭家庭分野』（平成29年3月）
- 7) 文部省；『高等学校学習指導要領第9節家庭』（平成10年12月）
- 8) 文部省；『高等学校学習指導要領第9節家庭』（平成20年3月）
- 9) 文部省；『高等学校学習指導要領第9節家庭』（平成29年3月）
- 10) 東京書籍；『新しい家庭』（平成7年検定版）
- 11) 東京書籍；『新しい家庭』（平成13年検定版）
- 12) 東京書籍；『新しい家庭』（平成16年検定版）
- 13) 東京書籍；『新しい家庭』（平成22年検定版）
- 14) 東京書籍；『新しい家庭』（平成26年検定版）
- 15) 東京書籍；『新しい家庭』（平成31年検定版）
- 16) 開隆堂；『わたしたちの家庭』（平成7年検定版）
- 17) 開隆堂；『わたしたちの家庭』（平成13年検定版）
- 18) 開隆堂；『わたしたちの家庭』（平成16年検定版）

- 19) 開隆堂：『わたしたちの家庭』（平成22年検定版）
- 20) 開隆堂：『わたしたちの家庭』（平成26年検定版）
- 21) 開隆堂：『わたしたちの家庭』（平成31年検定版）
- 22) 家内香子：『希望をたくしたクラス1枚の大きなタスペクトリー製作』，家庭科研究，Vol.270，p.12-17(2007)
- 23) 大葉好子：『ナップザック作り』，家庭科研究，Vol. 274，p.29(2008)
- 24) 大葉好子：『いろいろな調理方法を知ろう！』，家庭科研究，Vol.274，p.26-28(2008)
- 25) 大葉好子：『ごはんとみそ汁を作ろう！』，家庭科研究，Vol.274，p.24-26(2008)
- 26) 中里真一，小林陽子，前田亜紀子：『小学校家庭科における協働的問題解決を取り入れた布を用いたものづくり学習』，群馬大学教育実践研究，Vol.35，p.151-156(2018)
- 27) 池田清太郎，石原清佳：『じょうずに使おうお金と物』，第35回関東甲信越地区小学校家庭科教育研究大会(新潟大会)指導案集，p.10-13(2019)